

第2回中間報告

(報告期間2017年11月16日～12月30日)

基本情報

派遣クラブ：広島西ロータリークラブ
カウンセラー：加藤 博基 氏
受入ホストクラブ：Rotary Club of Brighton & Hove Soiree
カウンセラー：Chris Wellings

国際ロータリー第2710地区
2017-2018年度グローバル補助金奨学生
藤原周平

報告書提出日：2017年12月30日

E-mail：shujkl@gmail.com
連絡先電話番号：+44 7754 756 824
教育機関・専攻分野：サセックス大学大学院
国際教育と開発専攻（修士課程）
University of Sussex
MA in International Education and Development

目次

1. 学業面での成果
2. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流
3. 直面した課題、問題点等
4. 今後の課題、目標
5. その他特記事項

1. 学業面での成果

学んだこと、具体的には、開発の理論と政策を、国際開発援助の文脈で教育開発に関連付けて話し、説明できるようになったことが成果だと感じています。これは今後国際機関、国際NGOや国内の援助団体で活動を行う上で、必要不可欠な知識であるためです。

秋学期の授業は既に終了しましたが、1月中旬期限の課題として、「国際教育と開発の理論」の授業で4000字、「国際教育と開発の政策」の授業で2000字の研究課題が与えられています。これらの課題では、まさに、学んだことを国際教育開発の特定の文脈に合わせて、表現することが求められています。例えば、「国際教育と開発の理論」の課題では、学んだ理論の一つを選び、それがどのように国際教育開発に影響を与えているかを特定のケーススタディを取り上げ、考察することが求められています。私は、新自由主義（Neoliberalism）という理論を扱い、それがどのように国際教育開発の援助政策に影響を与えているかを論ずる予定です。具体的な文脈としては、ウガンダの中等学校教育で取り組みが進んでいる官民の協力(Public Private Partnership)の有効性について考察します。なお、新自由主義とは簡略化すると、自由な市場競争を促し、政府による介入を最小限に抑えることが、個人や国を豊かにするという考えです。

このように、国際開発援助に関連する一般的な理論や政策を、特定の教育開発のケースに結びつけて説明し、影響を分析・推測できるようになったことが、大きな収穫です。

2. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

11月16日に受け入れ先クラブの定例会に参加してきました。これで2回目になります。この時は、クラブが行っているプロジェクトである、タンザニアにあるザンジバル島の人々を支援するプロジェクトの紹介として、一人の青年が招かれプロジェクトの活動報告が行われました。まだ大学生程の年齢の青年が率先して、ザンジバル島に足を運び、現地で試行錯誤しながら活動をしていて、感銘を受けました。

12月1日には、地区内のロータリークラブが合同で行うクリスマスパーティに参加しました。最も印象的だったのは、食事が終わり始めた頃から少しずつ参加者が立って踊り始め、多くの方がダンスを楽しんでいたことです。会場は、音楽が流れるとともに、カラフルなライトで照らされていて、私にとっては、とても新鮮なクリスマスパーティでした。

さらに、12月8日には、毎年恒例の受け入れ地区内のクラブが合同で行っている募金活動に参加してきました。夕方6時から8時までの間、住宅街を一軒一軒訪ねて、子供達にお菓子を配るとともに、地区内の慈善活動のための募金をお願いしました。ご家庭を一軒一軒訪ねて募金を行うというのは、初めてで、日本ではあまり馴染みのない活動のため、当初は困惑していましたが、人々は非常に協力的で大多数のご家庭が寄付をしてくれました。イギリスでは、寄付の文化が深く根付いているのだなという印象を受けました。一方で、地区内のクラブが毎年合同で行っ

ている活動で、多くの人々に既に認知されていたというのも、大多数のご家庭が協力的であった理由の一つであると考えられます。当日は、非常に寒く、野外を歩きながら2時間募金活動を行うことは、体力的に厳しかったです。いざ終了すると多くの人々からの笑顔や温かさに触れることができ、晴れ晴れとした気持ちになりました。ロータリークラブが地域に根付いていることを印象づける活動に参加することができ大変嬉しかったです。

クリスマス休暇は、キャンパス内で過ごしていましたが、カウンセラーであるクリスさんからお誘いを受け、12月28日に昼食をクリスさん宅で一緒にさせていただきました。パートナーであるロットさん、そして、私の友人の計4名で昼食を楽しみ、交流を深めました。昼食は、私が日本に滞在していた時に、築地の寿司屋で働いていた経験がありましたので、巻き寿司を作ろうと提案し、私が鉄火巻き、きゅうり巻、鮪&アボガド巻きを用意して、召し上がっていただきました。とても美味しいと言ってくれ嬉しかったです。食後のデザートは、ロットさんが作ったチョコレートケーキと蜂蜜味のアイスクリームをご馳走になりました。イギリスに来てから食べたデザートの中で、一番美味でした。巻き寿司を喜んでいただきましたし、良い交流になりました。



参加2回目の定例会にて



クリスマスパーティにて



募金活動、サンタクロースと共に



住宅街をクリスマスカーが通る様子

3. 直面した課題、問題点等

前回の報告書でも言及しましたが、英語を十分に聞き取り、伝えたいことを即席で発信する能力が足りないという課題があります。ただし、この課題は、現在学んでいる大学院を超えて、今後開発途上国で働いていく中でも、続いて課題となることだと考えています。長期的な観点から、一つ一つの積み重ねが重要になってくると思っています。今出来ることとしては、授業で出来るだけ自分から発言する機会を増やし、授業外の日常生活でも様々な国籍の人々と積極的に会話をするのだと感じるので、これらを当然のことと意識して実行に移したいと思います。

4. 今後の課題、目標

今後の課題として重要なのは、どのような内容の修士論文を書くかを決定することです。去年所属していましたアジア経済研究所開発スクールでは、ニジェールの初等教育における自立型学校経営導入の影響について論文を書きましたので、地方分権化された教育システムに関連した内容を書こうと考えていました。しかし、秋学期での授業で、国際教育開発の理論と政策を幅広く学ぶ中で、今後の教育開発の潮流を踏まえた上で、熟考が必要であると考えようになりました。1月中旬から2月初旬まで冬休暇に入りますので、この時にどのような内容を書くかをより明確にしていきたいと考えています。

加えて、どのような手法で修士論文を書くかを決定することです。特に、私は、量的研究手法（統計学を使用したより数学的手法）に興味があるため、この手法を論文の中に含めたいと考えています。そして、どの程度までそれが可能であるかを研究する分野との内容と合わせて考える必要があります。出来る限り早く、論文の内容を明確化した上で、量的研究手法に詳しい教授にサポートをいただきながら、次回の報告までには、決定しておきたいと思います。

5. その他特記事項

国際教育開発コースには、約50名の学生が所属しますが、コース内の生徒委員長になりましたことを前回の報告書で書きました。ここでは、生徒委員長として実施したことについて書きます。なお、この生徒委員長は、大学主導で、オンラインベースでの選挙によって選出され、私以外に、ノルウェー人のクラスメイトが選ばれました。

まず、第一に、教室が狭いという問題に対処するために、コース内で投票を行うことで解決しました。当初、何か改善すべきことはないかと思い、クラスメイトとの会話を通して、コース内での不満や問題などをコース担当の教授と話し合う機会がありました。その中でも、50名入れるには教室が狭く、窮屈に感じるクラスメイトが多くいるということがより大きな問題として認識されていたため、そのことをコース担当教授と解決案を含めて協議しました。その結果、クラスを分割する、同じ内容であるが他のコース・曜日で実施されている授業に参加する等の実行可能な案を提示できることが分かり、それらの案から最も望ましいものをオンライン投

票によって決定しました。議論によって決めることもできましたが、授業時間を使うことはできませんし、全てのクラスメイトがある特定の授業外の時間に集まることも不可能に近いので、オンラインの投票を選択しました。結果、何も変えないという選択が一番多く、何か施策を実施することはありませんでしたが、この投票を通して、結果に対して多くのクラスメイトから合意を得ることができ、コースの運営に対して、貢献することができたのではないかと考えています。その他、コース全体で行うクリスマスパーティの出欠確認や集金などの雑務を行いました。今後もコース全体が良い方向に向かうよう何か出来ることを行い、貢献していければと思います。